

事例発表「東京学芸大学附属小金井小学校の飼育」

関田 義博



東京学芸大学附属小金井小学校副校長の関田です。よろしくお願ひいたします。

まずはじめに、本日はたくさんの先生方にお越しいただき、盛会にこの会を開催できたことを嬉しく思います。ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

ではこれから、本校の動物飼育に対する取り組みについてお話しさせていただきます。本校は確かに動物飼育を実践していますが、本当に学校としてやるべきことをやっているというだけですので、ある意味、基本的な取り組みをしている学校と言えらると思います。中川先生から先ほどご紹介がありました、保谷第二小学校や柳沢小学校のように、実績を上げている学校はほかにもたくさんあると思います。

これは去年生まれた子ウサギです（スライド）。非常にかわいかったので、保護者にもらわれていきました。まずは、飼育方法の前に、どういう目的で飼育するかということについてお話しします。やはり根拠となることは、学習指導要領です。動物飼育は、道徳、理科、生活科、特別活動などに位置づけられますが、国語やその他の教科にも関連するところはあると思います。また、直接体験ということが大切なこととしてあげられるわけですが、単に動物にふれ合うだけでなく、糞尿の世話など、日々の飼育活動に携わらせることが、小学生には大切なことだと思ひ、指導しています。

次に飼育方法ですが、基本的な考え方としては、学校全体で飼育していくということを目指しています。つまり、児童だけで

なく、教職員、保護者などいろいろな方々に協力いただきながら飼うということですので。そこで、小動物飼育サポートシステムという組織をつくって、組織的に取り組んでいます。先ほど大竹副学長からお話があったとおり、平成16年度から、中川先生や学校獣医師である増田先生にお世話になっております。それ以前はお話しできるような状態ではありませんでしたが、平成16年度からは徐々に改善して、現在に至っているといったところです。具体的には、飼育舎の整備や飼育方法などについてご指導いただいたり、チャボの血液検査を毎年1回行っていたりしております。本校の飼育委員会は「愛育委員会」と呼びますが、愛育委員会の指導を月1回行い、そのときには必ず獣医師の先生方にご指導いただいております。また、動物ふれあい教室を保護者も交えて不定期で行っています。それから、保護者向けの講演会や、学芸大学の学生さんに講義をしていただいたりもしています。その他にも、動物が死んだときに来ていただき、その対処方法などについてご指導いただいたりもしています。

次に、先ほどお話しした小動物飼育サポートシステムについてお話しします。ただ、このようなシステムは、多くの小学校で取り入れていると思いますが、基本的には本園と分園とに分けて考えるということですので。なぜ、分園が必要かといいますと、たとえば、教室をひとつの分園と考え、飼育舎から分園に連れて行った方が、子どもたちはより深く動物たちに関われるのではないかと考えます。本園と分園という考え方は、動物飼育だけではなく、本校はビオトープ活動も盛んに行っており、そこに生息するメダカやヤゴも分園である教室に持っていったりもしています。分園は、教室であったり、隣の附属幼稚園であったり、またご家庭であったりと様々です。当然、このシステムを支えてくださる方々の中に獣医師の方がいたり、5～6年生の愛育委員の子どもたちがいたり、休日お世話に来てくださる保護者の方がいたり、また学校側としては、環境コーディネーターを廃し

ています。このコーディネーターは、私と理科主任の二人です。

これは本園でつい最近撮った写真（スライド）ですが、ここにチャボがいて、こちら側にウサギがいます。このウサギは、雌と去勢した雄です。今年の夏は非常に暑いですが、飼育舎の上に木が茂っているのです、夕方になると木陰になって厚さを凌げるのではないかと思います。これが、今日活躍してくれた5羽のウサギたちです。またこれが今日活躍してくれたチャボたちです。また、ウサギは雌雄を一緒にするとすぐに子どもが増えてしまいますので、去勢していない雄は隔離してあります。またチャボは、雄どうしではケンカをしてしまうので、そのようなチャボも隔離しています。正月には、学校に入れなくなってしまいますので、そのときにはご家庭に御協力いただいて連れて帰っていただいております。本校の隣には附属幼稚園がありますが、チャボの子どもを産ませたいということなので、雄のチャボを貸し出しています。休日には、保護者の方々に協力をいただいて、飼育舎の掃除やえさやりなどをしていただいておりますが、その希望者を募る係が私の仕事です。いつも校長名で文書を作り、飼育サポート隊の募集を2～3か月分まとめて行います。文書には、活動できる日などを記入できる欄を作り、そこに記入をしていただき、これをもとに私が当番表を作ります。多い日は10家庭くらい担当していただくときもありますが、少ない日は3家庭くらいです。本校は学区域が広く、放課後子どもどうしで遊んだりがなかなかできない状況

です。そこで、この当番の日、作業が終わった後で子どもたちが遊ぶ機会とするようなご家庭もあります。作業方法は事前にプリントを配っておいて、その手順で作業をしていただいております。また、万が一のことを考え、危機管理的な対策を立てておく必要がありますが、何か緊急事態が生じたときは、私の携帯電話に連絡が入るようになっています。また、必要に応じて獣医師の先生に連絡する場合があります。安全面衛生面に関しては、月に1回チャボの血液検査をしていただいております。この意味は、本校のチャボは安心して触れることができるということを保護者の方々に伝えるということです。また、小屋にスズメを入れないようにして、外部からのウイルスの侵入を防いでいます。活動している最中に異変に気づいたら、当番日誌に記入していただくことになっています。この活動はPTA活動の一環としても行っていますので、子どもも保護者もPTA保険に加入していただいております。せっかく生きものを飼っているのだから、外に情報を発信していきたいということで、昨年は大学で行っている科学の祭典に動物たちを連れて行って、地域の方々にふれ合っていただきました。これは大学概要という冊子ですが、その中に附属学校の全体像というところがあって、そこに本校の飼育動物の写真などを掲載していただき、動物飼育に頑張っている様子をアピールさせていただいたりしています。

（東京学芸大学附属小金井小学校 副校長）



附属小金井小での取り組み



全国学校飼育動物研究会2010年夏ワークショップ
2010.8.10 附属小金井小学校 関田義博

1. 飼育の目的 ～根拠は学習指導要領～

- 道徳教育
 - ・生命尊重 ・思いやり ・責任感 ・奉仕等
- 生活科教育
 - ・2年間継続して飼育することにより動物へのかわりを深めること(直接体験)
- 理科教育
 - ・生きた教材、哺乳動物として
- 特別活動
 - ・愛育委員会が担当

2. 飼育の方法

(1) 基本的な考え方

飼育動物は学校教育に広くかかわるものであるため、学校全体で動物を飼育する。

- ・誰が...教職員、児童、保護者
 - ・個人負担でなく組織として育てる
- 小動物飼育サポートシステムの確立

(2) 現在までの経緯

- 平成16年度から中川先生、益田先生にお世話になる
- 具体的には...
 - ・飼育舎の整備、衛生面の指導
 - ・チャボの血液検査
 - ・愛育委員会の指導(月1回)
 - ・動物ふれあい教室の実施
 - ・講演会(保護者)、講義(学生)の実施、等

獣医師による支援



チャボの血液検査(益田獣医師)

獣医師による支援

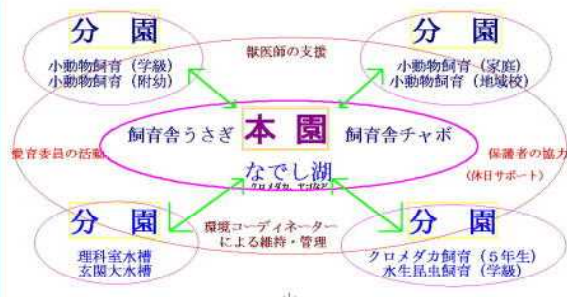


保護者向け講演会(中川獣医師)

(3) 小動物飼育サポートシステム

小動物飼育サポートシステム

— 東京学芸大学附属小金井小学校 —



飼育舎(本園)



チャボ小屋(左)とうさぎ小屋(右:メスだけ)

飼育舎(本園)



メス4羽と去勢したオス1羽

飼育舎(本園)



メス2羽とオス3羽

もう1つの飼育舎(本園)



オスうさぎ2羽とチャボ2羽

子うさぎの持ち帰り(分園)



システムを有効、柔軟に活用して動物を守り育てる

附属幼稚園へ(分園)



幼稚園のチャボをふやすために貸し出し

(4) 保護者の協力



「きれいになってよかったね」～休日の親子による活動～

休日当番の申し込みを募る

保護者各位 2010年4月16日(金)
東京学芸大学附属小倉井小学校長 藤田 秀 利

飼育サポート隊の申し込み(5～7月分)

飼育サポート隊の5～7月分の申し込み受付は本日より開始です。
申し込みの受付は、申し込み票の提出をお願いします。可能な日をご記入のうえ、副校長岡田もしくは主幹教諭塚本まで、一層出してください。
申し込みの締め切りは4月26日(月)です。4月27日(火)に分班表を配布します。ご協力をお願いします。

活動時間は午前中(10時～11時くらい)を基本とします。都合がつかない場合は、午後で活動していただくことも可能です。日曜および祝日は、専門が揃っていないため、大学正門から出入りください。控室へは、園生が出入りできません。園生室等の鍵は小学校へは、園生を呼ぶときは連絡先までお願いいたします。なお、園生が小学校の玄関から出入りいただくこともできます。

飼育サポートの活動は、飼育動物と安全にふれあうことのできるよい機会です。皆様のおかげで、生き生きと動物が育つ様子をご覧いただくこともできます。活動へのご協力を、ぜひお願いします。

【5～7月の活動日】
5月1(土) 2(日) 3(月) 4(火) 5(水) 8(土) 9(日)
15(土) 16(日) 22(土) 23(日) 29日(土) 30日(日)
31(月) ※
6月5(土) 6(日) 12(土) 13(日) 14(月) ※ 19(土) 20(日)
26(土) 27(日)
7月3(土) 4(日) 10(土) 11(日)

切り取り線
申し込み票(副校長もしくは主幹教諭までご提出ください)

年 組 児童氏名

活動可能な日をご記入ください。(確実に活動できる日のみをご記入ください)

申込票は副校長か主幹教諭に提出

【5～7月の活動日】
5月1(土) 2(日) 3(月) 4(火) 5(水) 8(土) 9(日)
15(土) 16(日) 22(土) 23(日) 29日(土) 30日(日)
31(月) ※
6月5(土) 6(日) 12(土) 13(日) 14(月) ※ 19(土) 20(日)
26(土) 27(日)
7月3(土) 4(日) 10(土) 11(日)

切り取り線
申し込み票(副校長もしくは主幹教諭までご提出ください)

年 組 児童氏名

活動可能な日をご記入ください。(確実に活動できる日のみをご記入ください)

当番表が完成(副校長作成)

飼育レポート 当番表 (7月17日～9月12日分) 2018.7.16 東京学芸大学附属小金井小学校

月 日	お名前(グループ)
17 (土)	船野直樹(1-3)杉本謙典(1-3)小林智哉(2-1)佐々木裕輝(1-3)森永さくら(1-3)深見颯太(1-3)今村美穂子(1-3)阿部直生(1-3)
18 (日)	船野直樹(1-3)鈴木蓮英(1-3)田中史郎(1-3)佐々木裕輝(1-3)船野謙輔(1-3)鈴木孝弘(1-3)佐藤悠志(2-2)
19 (月)	船野直樹(1-3)佐藤紀子(2-3)岩塚美穂(2-1)片山洋佳(2-3)
24 (土)	渡村祥隆(1-3)内藤孝典(1-3)高野隆(1-3)山下裕史(1-3)下山重典(1-4)佐々木裕輝(1-3)中村颯人(1-4)神田圭希(1-4)
25 (日)	三河尻紀明(1-4)佐々木裕輝(1-3)小松謙幸(1-1)
30 (金)	船野直樹(1-3)中丸由理佳(1-4)下山重典(1-4)枝田彩伽(2-1)
31 (土)	橋本孝弘(2-2)船野和裕輝(1-3)河原研とことろ(4-4)川口輝一朗(3-4)澤井佳重子(1-1)高木直樹(1-3)川添蓮佳(4-2)山下聖太郎(1-3)野口進真(1-4)水澤紅歌(1-3)
1 (日)	村松孝彦(1-3)菅野心平(1-2)川村悠帆(2-4)
2 (月) ※	船野直樹(1-3)高野隆(1-3)大城謙也(1-3)鈴木蓮英(1-3)今村美穂子(1-3)菊池悠輝(1-3)藤村日菜(1-2)飯島悠希(1-3)
3 (火) ※	滝沢成哉(1-2)菅野心平(1-2)菅村尊輝(1-3)鈴木蓮英(1-4)村田尚志(1-3)小林麻生(1-2)神田圭希(1-4)

7/20～23、26～29はプールに来た愛育委員が担当

当番用マニュアルの配布

せわ(そうじ)のしかた 2009.12.21 小倉井小 岡田

の字書

1. 掃除をします。
 - ① ほうきでフンを掃き集めます。掃くのは小黒入口の水色ガリボックスの中。
 - ② 掃く時の動線は、フン、毛玉などを、ガリボックスの中に掃く。 (汚れる側から大きな音のしないように)
 - ③ 汚れた側のボックスリールを押し、床の「おしっこあて」があるところに水を流します。デッキブラシやほうきですくうように流すと、きれいになります。ボックスの口は、FULLがいっぱい。1G瓶の緑水次へ流し出します。(人手が足りないときは、はげ掃除のけっこうです)
 - ④ トイレに新しい新聞紙をセットします。(1. 2枚をたたんで) できれば、新聞紙を家から取ってきてください。
 - ⑤ もしも多量に汚れて穴があいたら、小黒を日光に当て干しましょう。
2. スキをおきます。
 - ① 掃除の後に、園庭肥料を入れます。
 - ② 芝生の肥料が足りなくなると、是非教えてください。(作業の前後、自らの負担、土壌のへたなど)
3. 水をあげます。
 - ① 草がのび始めるようになっていっています。たわしでこすり洗いましょう。
 - ② 肥料の水をあげましょう。(草が半分以上)
4. 鍵を確かめておきましょう。
 - ① 鍵を閉める前に入らないように、首と鍵を閉めましょう。(外ではなく小黒の入り口)

(5) 危機管理事項

1. 緊急事態 → 副校長の携帯電話へ
 - ・学校へ駆けつけ
 - ・獣医師への連絡等
2. 安全および衛生面
 - ・チャボの血液検査
 - ・小屋にスズメを入れない
 - ・飼育当番日誌の記入
3. 親子飼育当番をPTA活動に位置づけ
 - ・事故があったら保険で対応

(6) 積極的な活動の展開



科学の祭典2009.9.13への参加(大学、地域と連携)

広報活動を積極的に展開

東京学芸大学 附属学校 概要

附属学校 概要

附属学校とは、日々の教育活動の充実、本校の教育理念の継承、教育活動の発展、教育活動の活性化を目的として設置されています。本校は、附属学校に設置し、教育活動の活性化を図ることを目的としています。また、附属学校は、本校の教育理念を継承し、本校の教育理念を推進する役割を担っています。

附属学校 概要

附属学校とは、日々の教育活動の充実、本校の教育理念の継承、教育活動の発展、教育活動の活性化を目的として設置されています。本校は、附属学校に設置し、教育活動の活性化を図ることを目的としています。また、附属学校は、本校の教育理念を継承し、本校の教育理念を推進する役割を担っています。

「大学概要2010」に動物飼育を掲載